

# お知らせ

## 症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
<b>■乳腺テクニカルカンファレンス</b> 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■呼吸器カンファレンス</b> 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■消化管カンファレンス</b> 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
<b>■周産期症例検討会</b> 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

## 研修会のご案内

日程	テーマ	講師
2月23日(木)	婦人科がん診療の最近の話題 輝く女性のために心に寄り添う看護を目指して	産婦人科部長 竹内 正久 看護師主査 城戸田 しのぶ
3月 7日(火)	がんの痛みと症状マネジメントについて	緩和ケア内科部長 大場 秀夫 緩和ケア認定看護師 栗田 睦美

▶ 場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂  
 ▶ 時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】  
 北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



KMMMCnews 輪

# KMMMC

Kitakyushu Municipal Medical Center

# news

2017  
January

# 輪

北九州市立医療センターニュース

第64号

平成29年1月30日発行

発行人：北九州市立医療センター

〒802-0077

北九州市小倉北区馬場2丁目1-1

TEL.093-541-1831 FAX093-533-8693  
<http://www.city.kitakyushu.jp/page/hospital/center/>



第64号

<本院の基本理念>  
 わたくしたちは公共的使命を自覚し  
 心のこもった最高最良の医療を  
 提供します



INDEX

2017年院長年頭あいさつ	1
医療の進歩・アメリカ短期研修	2
スポットライト・海外視察を終えて	3
トピックス・第9回北九州市立医療センター 緩和ケア研修会	4
トピックス・第6回業務改善活動報告会	5
トピックス・患者満足度調査(外来)の結果について	6
看護の広場・4階北小児病棟	7
人物クローズアップ・マラソンの輪	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会・研修会のご案内	

# 2017年院長年頭あいさつ



北九州市立医療センター 院長

## 豊島 里志

明けましておめでとうございます。

今年も市立医療センターをどうぞよろしくお願いいたします。

さて昨年末地域医療構想案が公になりました。北九州医療圏では必要病床数と現状の乖離が、とくにその内訳として大きく、急性期病床は必要数5,300に対し、2,000床過剰、回復期病床は必要数4,800に対し2,400不足という数字が提示されました。

市立医療センターはこれまで目指してきたこの地域での地域完結型医療提供体制の確立という命題を大切にしていこうと思います。一定のダウンサイジングを想定してでも急性期型病院としての体制づくりを目指します。その過程では当然市立病院の果たすべき役割の明確化とその機能を果たすにもっともふさわしい体制づくりをあるいはトータルで考えなければならない地点がくるのではないかとこの予感もあります。

幸いこの北九州医療圏は特徴を持った優れた病院に恵まれています。それらの機能の組み合わせのなかで市立病院としても機能の取捨選択が迫られてくるかもしれません。このような地域医療提供体制を可能にするのが何と云っても地域連携という命題です。片方に地域包括ケアシステムの枠づけを意識しつつ、その中に市立病院を適切に位置付けしていきたいと考えています。

お正月にかこつけた初夢を語りました。槌音で眠りが破られたとしても夢は破らないようにと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



## アメリカの短期研修で 腰痛の手術について改めて考えました



整形外科 主任部長 吉兼 浩一

2016年9月にアメリカ合衆国に1ヶ月間研修に行く機会を与えていただいた。合衆国南西部でメキシコと国境を接するアリゾナ州、その州都フェニックスはカリフォルニアから飛行機で2時間弱である。Dr. Anthony Yeungが開設するプライベートの脊椎手術センター-DESERT INSTITUTE FOR SPINE CARE-Phoenix (DISC)は脊椎内視鏡手術の聖地で、合衆国のみならず世界中から彼の手術を目的に患者と脊椎外科医が多数来院している。Dr. Yeungは現在75歳、整形外科出身の脊椎外科医で50歳から脊椎内視鏡手術の開発に取り組み、この25年間手術のみならず手術器械の開発も手掛けてきた。現在当院で使用しているわずか8mmの皮切でヘルニア摘出等すべての操作が行えるPED内視鏡セットはまさに彼が開発し発展させたものである。

最近日本では脊椎固定術が盛んに行われる傾向にある。元々機械を扱うのが好きで曲がったものを真っ直ぐにしたくなる性質のある整形外科医の興味

をそそる手術で、達成感も高いことが大きな理由と考えられる。ただ手術手技料の何倍も高い材料費がかかり、業者によるプロモーションも強烈で、商業ベースで踊らされているようにも見える。固定術は身体への侵襲が小さいとは言えず、術後数年して顕著になってくる隣接椎間障害の問題もあり、手術では最終手段として選択されるものとする。

PED手術では「痛み」の原因を解剖学的に特定しピンポイントに治療を行うため、身体への負担は最小で隣接椎間障害の問題もない。局所麻酔も可能で、入院期間も短縮されることから経済的負担も軽減される。当院では導入して7年で約1,000例であるが、先達であるDr. YeungとDICSの医療スタッフを含めたチームの洗練された手術は大変参考になった。今回の研修でアップグレードした手術手技は麻酔科・手術室・病棟・外来スタッフにも協力いただき当院でも10月から導入しました。



▲DESERT INSTITUTE FOR SPINE CARE-Phoenix (DISC)



▲左から韓国(3人)、吉兼、Dr. Yeung、インド、ブラジル、ギリシャの医師らと術後カンファレンスにて



▲アリゾナ ダイヤモンドバックスの本拠地 CHASE FIELDでメジャーリーグ観戦(対ロサンゼルスドジャーズ)



▲Horse Shoe Bend(コロラド川)の大自然 (Phoenixから車で3時間)



▲セドナのパワースポット (Phoenixから車で1時間半)



## 海外視察を終えて



看護管理室 副看護部長 大津 博恵

平成28年11月、全国自治体病院協議会主催の海外医療視察研修としてスウェーデン、ドイツの地域医療・介護現場を訪問しました。スウェーデンの視察先は、県と市と民間が共同で経営する看護公社とノールテリア市の緊急病院で地域医療の中心になっていました。

スウェーデンの社会保障制度は「医療と介護の2つの椅子からこぼれ落ちる人が居ないように医療・介護を統合化し、在宅ケアの実現をする」という方針に基づき、国民からの高い税収入で、広範囲で高水準の所得保障が特徴です。

ストックホルムは映画「魔女の宅急便」のモデルになった石畳の古い町並みが残る海に見える街です。ノーベル賞授賞式が開催される市庁舎やルネッサンス様式の王宮、丘から見る市街の夜景は印象的な美しさでした。



▲ストックホルムの丘からバルト海を望む

次に訪れたドイツのミュンヘン郊外のカトリック系のナーシングホームは、入居条件は80歳以上、個室と2人部屋があり夫婦で入居しているという人も居ました。入居期間は10年～20年という人、入居してすぐに亡くなる人等さまざまで料金は毎月1,700ユーロと高めですが、多くは個人年金で支払われています。年金の少ない人にも補助があり、誰でも入居することができます。この施設は終わりの住処であり、治療をする場所ではないという信念に基づき運営されているということでした。スウェーデンもドイツも高齢化が進み、認知症への取り組みは日本と同様、社会的問題になっていました。医療・福祉に関して日本との政策の違いを強く感じましたが、それぞれの社会情勢を見据え自分たちにできることは何かを考える良い機会をいただきました。



▲ドイツマリエン広場 ミュンヘン市庁舎



ドイツ ショーンガウ市立総合病院▶



## 第9回北九州市立医療センター 緩和ケア研修会



麻酔科 部長 神代 正臣



▲アイスブレイキング

平成28年11月12日(土曜日、A課程)・13日(日曜日、B課程)に当院別館講堂ほかで、がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会を開催しました。当院から医師26名(うち1名はA課程のみ、1名はB課程のみの参加)、院外医師2名、院外医療スタッフ2名の申込みがあり、1人の欠席者もなく2日間の課程を修了しました。ファシリテーター(講師)は当院医師・看護師のほか福岡大学病院、小倉記念病院、九州大学病院、さだもと胃腸科クリニックからの応援、そして北九州市医師会の後援をいただきました。

本研修会は、がん診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目標としており、緩和ケア研修会標準プログラムに準拠し、地域がん診療連携拠点病院である当院では定期的実施しています。

プログラムは厚生労働省より日本緩和医療学会が委託を受け作成したものを採用しています。その内容は、緩



▲グループワーク

和ケア概論、がん疼痛の評価と治療、身体症状・精神症状の講義を行います。がん疼痛の事例をグループで検討し発表したり、オピオイドを開始する時のロールプレイ(模擬劇)、コミュニケーション技術のロールプレイがあり、療養の場所の選択と地域連携をディスカッションすることからなっています。全体で12時間以上、2日間以上をかけて施行します。

福岡県は全プログラムを上述のようにA・Bと2つの課程に分けて2日間で行っています。A・B両課程を連続して受講することが望ましいのですが、A課程を受講した後1年以内にB課程を受講することもできます。本研修会でA・B両課程を修了した27名の医師には厚生労働省健康局長と福岡県知事の連名による修了証書と修了者バッジが後日交付されます。2名の医療スタッフには福岡県知事と当院院長連名の修了証書が当日授与されました。

本研修会の開催に際し、多くの労を取っていただきました事務局の皆さんに深く感謝いたします。



▲講義風景



▲医療スタッフへの修了証書授与

Topics | トピックス |

## 第6回業務改善活動報告会

業務改善活動推進委員会 委員長  
看護部長 山本 智美



11月28日に第6回業務改善活動報告会を開催しました。

第1回の報告会が開催されたのは平成23年で、当時の看護部長を中心に、「部署や職種を超えた改善活動を行うことで連携を深め、職員全員が一丸となった病院づくりを目指す」という趣旨で始められたものです。他施設と比べるとまだまだ歴史も浅く洗練されたものではありませんが、職員が日常の業務プロセスに目を向け改善活動を行うことで、医療サービスの向上に努めています。



6グループから活動報告が行なわれました。どのグループも工夫がなされ、積極的に改善活動が行われていることが伝わってくるものでした。最優秀賞は、集中治療室の医療安全グループが報告した「集中治療室におけるインシデント傾向分析と再発防止への取り組み～はじめの一步KYT※～」でした。集中治療室で発生件数



の多いチューブ・ライントラブルに焦点を当て、危険回避行動をとるために何ができるか検討した結果、リスクセンスを磨く必要があると考え、KYTを取り入れた活動についての報告でした。日頃の気づきを改善につなげる活動は、どこの部署でも行っていると思います。残念ながら、今回の応募は看護部と放射線部門からだけでした。次年度は、多く部署から活動報告が行なわれるよう、少し気軽な気持ちで応募できる工夫と職員が明るく楽しく参加できる業務改善活動を推進していきたいと思ひます。

※KYT：危険予知トレーニング

Topics | トピックス |

## 患者満足度調査(外来)の結果について

外来委員会 委員長  
総合診療科 主任部長 眞柴 晃一

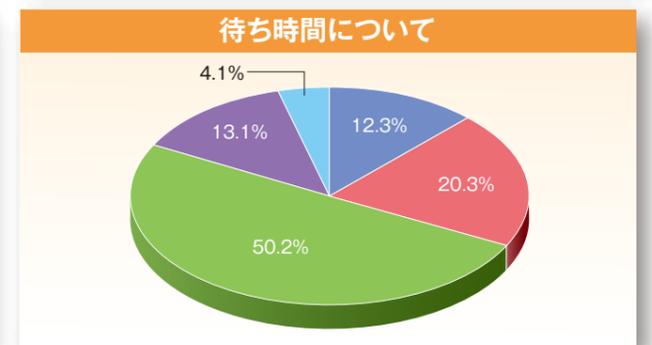
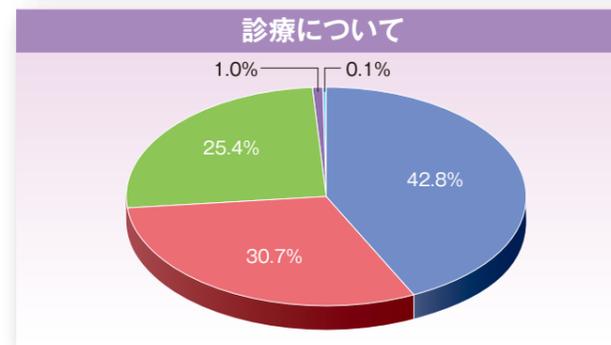
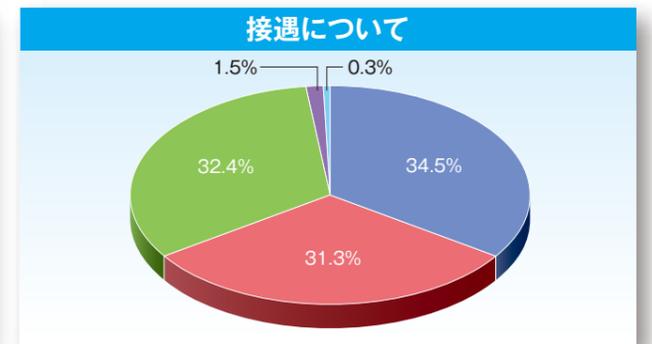
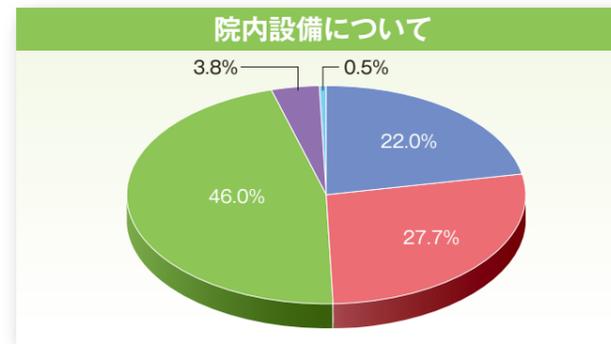


患者さんの意見・要望を把握し、医療サービスの向上など今後の病院づくりに役立てるため、外来受診された患者さんにご協力いただき満足度のアンケート調査を実施いたしましたので、その集計結果についてご報告いたします。

### 1 アンケート実施概要

- (1)実施時期 平成28年10月17日～21日
- (2)調査対象 実施時期に来院された初診・再診外来患者さん 300人
- (3)調査概要 院内設備、接遇、診療、待ち時間について30項目を5段階評価(大変満足5点、やや満足4点、普通3点、やや不満2点、不満1点)で無記名アンケートを実施
- (4)回答数 222件(回収率74%)
- (5)総合評価点数 初診：77.7点(昨年比-1.4点) 再診：80.1点(昨年比-0.7点)

### 2 集計結果 (初診、再診の各項目のポイント合計から評価ごとに按分したもの)



■ 大変満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満

### 3 調査結果を踏まえて

接遇や診療の満足度は一定の評価を得ていますが、院内設備や待ち時間など、いくつか改善すべき課題があるといえます。個別の自由意見ではトイレや待合室の明るさについてや待ち時間など多くのご意見をいただきました。

調査結果で明らかになった課題の解決に向けて、トイレ改修工事の案内や待ち時間改善のための検査体制の見直し、予約時間の分散等可能な限り対応を行っているところです。また、待ち時間を少しでも快適に過ごしていただくための椅子の増設や患者さんが集中するトイレは職員が使用しない等の対策も行っています。今後も患者さん全てにご満足いただけるよう努力してまいります。

外来委員会では、今後もこのアンケート調査の結果や御意見を踏まえ、患者さん視点で課題を見つめ、医療サービス向上のための検討を重ねていきたいと考えています。

最後になりましたが、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

看護の広場

# 4階北小児病棟 ～子どもたちの笑顔のために



4階北小児病棟 看護師長 向野 立代

当病棟は、病床数26床で0歳～15歳(中学生)までの子どもに対し、小児科・小児外科・耳鼻科・整形外科・脳外科など多岐にわたり、医師・看護師・他職種が協働してチーム医療を行っています。

また、NICUより転棟後数日間を母と過ごし退院される場合もあり、育児不安が軽減できるよう病棟間・外来とも連携をとっています。さまざまな疾患をもって在宅で生活をしている子どもの入院に際しては、医療連携室や訪問看護ステーション・福祉等との連携で退院支援を行っています。

病棟には、看護師に加え3名の保育士が交代で毎日勤務しており、年齢に合った保育、採血時のプレパレーション、毎月のイベントの計画・運営等を行っています。7月の夏祭りと12月のクリスマス会は、医師・看護師・保育士が協力して子どもたちが楽しめるよう趣向を凝らしています。



小児では、子どもの看護に加え、ご家族との信頼関係を築くこともとても大切です。入院時、看護師を見ただけで泣いていた子どもが、笑顔を見せてくれたり手を振って退院される姿は、私たちの癒しとなり、ご家族の笑顔へ繋がっていきます。子供たちの笑顔のために、子どもの権利を守りながら安心して安全な質の高い看護を提供するとともに、ご家族の不安な気持ちにも寄り添い、愛情のある優しい看護を行って行きたいと思えます。



▲病棟にて②



▲サンタさん



▲田口先生



▲赤ずきんちゃん!?



▲クリスマス会の様子①



▲クリスマス会の様子②



▲クリスマス会の様子③



▲クリスマス会の様子④

## 人物 Close up! マラソンの輪



内科 部長  
太田 貴徳

働き始めてからは喫煙、暴飲暴食の不規則な生活を過ごし、一時期は体重100kgを超えていました。

そんな私が37歳の時に門司港レトロマラソンを契機に走り始め、今では過去にやっていた水泳、サッカー、バレーボールよりも楽しく取り組んでいます。フルも5回(うち3回が北九州マラソン)走破しました。転倒しても3時間7分でゴールできる時もあれば痙攣で足を引きずりながら、4時間43分でゴールする時もあります。患者さんの状態や家族の行事などで全く走れない時期もあれば、学会にランニング靴を持っていき名所を走ることもあります。基本、大会前以外は走りたいときに走っています。

マラソンで多くの方々に会いました。まずは院内最大run集団である薬剤課です。薬剤師さん達は国内外のマラソン参加のみならず、リレー企画、打ち上げ、応援などでも院内走者を盛り上げてくれます。医師は外科系(泌尿器科、外科、脳外科、産婦人科、麻酔科、耳鼻科etc.)に多く、タフな熟練ランナーばかりです。サブスリー(2時間台)走者の大坪先生もいます。もう一人のサブスリー周山氏は肉体派リハビリチームに属しています。サブスリーは市民ランナーの憧れです。看護部の女傑達は各病棟に散らばっており交替勤務の合間を縫って大会に向けて頑張っています。



▲薬剤師、看護師さん達とリレーマラソン



▲ロンドン五輪の中本健太郎選手と

マラソンプームもあり、年々院内走者は増加しており北九州マラソンだけでも20人以上は出場しています。さらに、大会では友人、先輩・後輩、他施設の知人に出会えるのみならず、五輪選手とも簡単に会えます。千葉真子、有森裕子選手と走行中にハイタッチや猫ひろしと併走もできました。超一流選手を含め、多くの人と出会え一緒に競技できることもマラソンの醍醐味です。

最後に健康であること、走れる環境を職場や家族が支えてくれていること、応援して下さる方々がいることなどに感謝しつつ、2017年北九州マラソンも多くの走友達と完全燃焼したいと思います。



▲家族でリレーマラソン

登 録 医 師 介 紹

**+** INFORMATION

所在地：小倉北区木町4丁目1-2 院長：西見 文紀  
 電話番号：093-562-1645 診療科目：整形外科・リウマチ科・  
 F A X：093-562-1646 リハビリテーション科



## 西見整形外科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~11:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~17:30	○	○	○	×	○	×	×

**アピールポイント**

昭和37年に父が開業し、昭和63年に私が継承しました。恩師井上明生先生の「現在患者さんの身体の中で起きている事実は1つであり、それを直視して診療せよ」を座右の銘として診療しています。

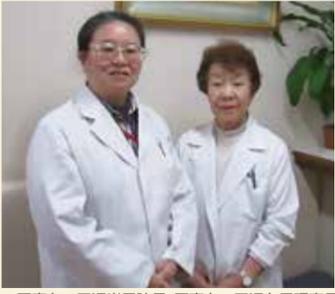
**市立医療センターへの一言**

特に整形外科の先生方には、いつも大変お世話になっています。何よりも懇切丁寧で正確な治療を患者さんにさせていただき感謝しております。これからもよろしくお願いします。




**+** INFORMATION

所在地：小倉南区企救丘4-7-2 理事長：田辺 久子  
 電話番号：093-962-0825 院長：田辺 尚子  
 F A X：093-962-0825 診療科目：内科・小児科



## 田辺内科小児科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~18:00	○	○	○	○	○	×	×

**アピールポイント**

昭和48年4月より志徳団地8棟前に開業しております。地域が田舎から住宅地へと変わっていき、平成11年より母子二代で内科・小児科を続けております。乳児から高齢者まで幅広い世代の方々に地域のかかりつけ医として一般診療、健診、予防注射、介護相談等、今後もお役に立つことができればと思っております。

**市立医療センターへの一言**

市立小倉病院だった旧病院時代から、何かあった時の拠点病院として多々お世話になっております。アクセスも良く各科の熱心な先生方がいて、そのうえ当院の急な紹介、お願いも引き受けていただいております。医療環境が厳しい中、これからもお世話をお掛けいたしますが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。




▲写真左：田辺尚子院長、写真右：田辺久子理事長

医療連携室だより

平素より、当院の地域医療連携推進につきまして、ご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。当院では地域の医療機関とインターネットで繋がった切れ目のない医療サービスを目指して、平成26年2月に「連携ネット北九州」の運用を開始しました。連携ネット北九州では以下の内容について検査の予約や閲覧をすることができます。また、検査予約をせずに当院の検査結果等を閲覧するだけの利用も可能です。

- 検査の予約**  
CT、MRI、RI、X線撮影、骨密度、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコー
- 閲覧内容**  
上記検査及び内視鏡の画像とレポート、血液・生化学検査、処方箋(服薬・注射)、病理診断、細胞診断

さらに、平成28年度中に

診療情報提供書、退院時要約、中間要約、看護要約、患者情報シート、リハビリ要約

についても公開する予定です。今後も利用者様のご意見を伺いながら、より良いシステムとなるよう努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、当システムは日頃使われているパソコンにシステムを導入(無料)するだけで使用可能です。ぜひご利用下さい。(問い合わせ先：医療連携室 TEL:093-533-8660) 経営企画課 児玉 龍志



連携ネット北九州イメージ図

**【医療連携室】**  
 TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>  
 E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

**編集後記**

当院では関係法令の改正により、昨年10月から紹介状のない初診患者さんに5,400円の選定療養費を負担していただくことになり、それに伴い全科紹介制になりました。引き続きご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。また昨年12月末の連休を利用して電子カルテシステムの更新を行いました。一時急患対応の制限を行う必要がありご迷惑をおかけしましたが、無事に新システムへの移行が完了いたしました。ご協力誠にありがとうございました。(山野)

**【表紙写真について】**

昨年12月22日に1階外来ロビーで行われた福岡県立門司学園高等学校の吹奏楽部の皆さんによるクリスマスコンサートの一コマです。器楽演奏、合唱、そして浜田侑里さん(第70回瀧廉太郎記念日本高等学校声楽コンクール本選で優秀賞を受賞)のソプラノの澄んだ美しい歌声に、患者さんも職員も皆魅了され聞き入っていました。

**広報委員会「輪」編集委員**  
 山野裕二郎 山方伸茂 山本智美 高瀬真弓 佐藤美登里 高見将彦 天野健司 中山俊輔